

コニカミノルタ株式会社

2024年3月期 第2四半期 決算説明会

主な質問と回答

日 時： 2023年11月2日（木）17:00～18:00

方 式： オンライン／テレフォンカンファレンス

<ご留意事項>

「主な質問と回答」は、決算説明会に出席になれなかった方々の便宜のため、参考として掲載しています。説明会でお話したこと全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

また、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。

【全社業績】

Q. 説明の中で事業貢献利益は計画を上回ったとのことですが、具体的な金額を教えてください。

A. 上期40億程度、社内計画を上回りました。

Q. 会社計画対比で順調に推移しているが、何かあった時はひるむことなく見直すという説明がありましたが、意図を詳しく教えてください。

A. 良い面も悪い面も先送りをしないという意図です。非重点事業・方向転換事業と位置付けている事業がありますが、これらは継続検討中ですが、実行の上で25年度を迎えたいと考えています。今回、実行に移せた良い面として、光学コンポーネント事業でのアクションが開示できましたが、続くものを出したいと考えています。悪い面としては、前期の教訓を生かし、収益性が低い事業について自主的に定期チェックを行っています。例えばプラネタリウムの直営館での集客回復が想定より遅れていることで、減損損失等が発生する可能性もリスクとしてあります。

【デジタルワークプレイス事業】

Q. オフィスプリントのハードは対前年比で89%ですが実質はプラス、またA4モデルの販売が増えたとのことでした。市中在庫や価格調整など市場環境全体をどう見ているのか教えてください。

- A. オフィスプリントのハードは昨年の受注残剥落を考慮した実質の増減では+3%と見えています。プリント量では、FY19比で8割程度まで戻り、横ばいを維持しているのが実態です。下期の変化に対しては引き続き注視が必要と認識しています。
- 国別では、中国は足元では厳しいですが、販売台数へのインパクトは大きいものの収益へのインパクトはそれほど大きくありません。欧州は地域によって異なり、ドイツは厳しいですが、フランスは横ばい、スペインやイタリアは若干プラスになっています。
- A4モデルに関しては、台数は増加していますが、カラー機に特化していることもあり市況に関しては当社の状況と必ずしも一致しないという面があり、コメントは差し控えます。

【プロフェッショナルプリント事業】

- Q. プロフェッショナルプリント事業の事業貢献利益は上期 36 億の実績で、通期 120 億を考慮すると下期のハードルが高いように見えます。下期の見通しについて教えてください。
- A. プロダクションプリントのハードは、上期では厳しい状況でしたが、パイプラインは痛んでいません。ノンハードは、想定より少し上回り、特に中国とインドは好調です。シーズンリティを考慮するとノンハードは、上期よりも強くなると見えています。
- 産業印刷は、一部大型印刷機の設置など遅れていますが、全セグメントでハードが増加しています。また、ラベル印刷機の新製品投入もあります。稼働するハードの増加によるノンハードの売上増加も継続することを見込みます。
- これらにより、見通しを達成できると見えています。

【ヘルスケア事業】

- Q. メディカルイメージング（ヘルスケア）事業の市況について、今後の見通しを教えてください。
- A. メディカルイメージングは国内の売上が過半ですが、上期よりも下期、特に4Qが強いシーズンリティがある事業ですので、下期は伸長を見込みます。動態解析も米国と日本で展開し、成長ドライバーの一つです。
- Q. プレジジョンメディシン事業の Ambry Genetic 社と Invicro 社は個社で黒字とのことですが、継続性含め下期の見通しについて教えてください。
- A. Ambry Genetic 社と Invicro 社の個社黒字は、遺伝子検査の市況や治験の状況から継続可能と見えています。売上成長に合わせて、検査の自動化への投資や開発投資など成長投資を絞り込んで進めています。下期には収益性をもう一段上げたいと考えています。

【インダストリー事業】

- Q. インダストリー事業の事業貢献利益は上期 60 億の実績で、通期 185 億を考慮すると下期のハードルが高いように見えます。下期の見通しについて教えてください。
- A. センシングでは、上期はディスプレイの顧客からの受注が遅れ気味でしたが、下期は受注の期ずれの影響により挽回を見込んでいます。
- 機能材料では、2Qは1Qに続きテレビ向けの市況が戻ってきています。下期はサプライチェーン上の在庫が増えることも注視していますが、大型テレビの需要は継続する

と見込んでいます。また中小型ディスプレイ用途の薄膜フィルムは、サプライチェーン上の余剰在庫調整に進みは見られましたが、未だ低調な動きになっています。

I Jコンポーネントは順調に推移しています。

総じて一定の後ろ倒しはありますが、下期で挽回可能と見えています。

Q. 光学コンポーネント事業の一部譲渡について、24年1月に実際に譲渡が実施された場合には売却益がその他収入に計上されるのでしょうか。

A. 1月以降に譲渡が行われることを想定していますが、為替の影響や資産額の調整があり今回は具体的な数値の開示は控えています。損益への影響は軽微と見込んでいます。

Q. 光学コンポーネント事業の一部譲渡について、来期以降の影響を教えてください。

A. 売上高が少し減少しますが、固定費が減少し利益率は改善方向になります。

以上